

## 高度な運転技能の評価方法に関する調査研究（Ⅱ）（平成4年度）

安全運転に必要な高度の技能・知識の評価方法は確立されたものがなく、高度な運転技能を評価するための方法を明らかにすることが当面の急務とされている。そこで、2カ年計画で運転者の注視点、運転操作、車両挙動等に関する総合的な走行実験を実施し、運転技能レベルによって差異のある交通場面および計測項目を抽出する観点から解析および分析を行った。第2年度は更に対象道路を拡大し、データ数を増加させた。

① 初心運転者（普通免許取得後1年以上3年未満）と熟練運転者（普通免許取得後3年以上）各々16名を被験者として、昨年同様、市街路、山岳道路、高速道路の3つのコースを設定して走行実験を行った（表）。市街路走行における熟練運転者と初心運転者の相違点は、先の交通情報を読む力、潜在危険性の予知能力、運転する車両の車幅感覚（特に左側方）、安全余裕の取り方、速度に応じたハンドル操作等であり、運転操作・車両挙動よりも注視行動の方に相違が大きいと思われる。従って、技能判定についてはドライバーにアイマークレコーダを装着し、様々な道路環境下で実験を行えば、そのドライバーの視覚行動を中心とした熟練度合いを測定することが可能である。

表 運転技能レベルによって差異のある交通場面及び計測項目

道路種別	計測項目等 交通場面	注 視 点	運 転 操 作			車 両 挙 動			そ の 他
			アクセル	ブレーキ	ハンドル	前後加速速度	車速	横加速度	
市街路	駅前商店街	○	×	○	×	×	×	×	車幅感覚
	住宅街	○	○	○	×	○	○	×	車幅感覚
	信号交差点右折	○ (対向車等の再確認)	×	○	○	×	○	○	
山岳道路	右カーブ	○ (内側)	○	×	×	×	○	○	
	左カーブ	○ (内側)	○	×	○	×	○	○	
高速道路	右カーブ	○ (内側)	○	×	○	×	○	×	
	左カーブ	○ (内側)	○	×	○	×	○	○	
	流入・流出	○	○	×	○	○	○	○	
路	車線変更	○	×	×	○	×	○	×	

○：差異の見られたもの  
×：差異の見られなかったもの

- ② 山岳道路走行で推定される、熟練運転者と初心運転者との相違点は、先の交通状況を早目早目に読む能力、カーブにあったメリハリのある速度制御、カーブにあったハンドル操作、カーブ通過時の安定性である。
- ③ 高速道路走行における相違点は、先の交通状況を早目早目に読む能力、潜在的危険性の予測能力に加え、自分の技量にあった適正な速度の選択、適正な車間距離の選択と維持、追越しに要する時間（距離）が長いことが推定される。
- ④ 今後取り扱うことが望ましい項目は、潜在的危険性に対する予備的行動、運転者の目および実験者の後方・側方の状況の映像的記録、車線内での実験車の横方向の位置および向き、変速機でのギアの位置、運転中の姿勢および必要に応じた姿勢の変更、コンフリクト直前の情報収集などがあげられる。また、運転技能評価の実用化に向けて必要となる課題は、アイマークレコーダに取って替わるべき簡易な注視点記録装置と方法等の開発、運転操作や車両挙動のセンサー類の低価格化と簡易化、記録・解析・評価システムの低価格化と簡易化などがあげられる。